

して凡て事を自己本意に運んで損をさせ、失敗させたと云はれることとなり、それ等を考へた時此の上重職に甘んじてゐる事は出来ない、是非曲げても社長を始め後進者で經營は出來得るから聞き届けられたいと歎願し漸く十四年一月に至つて内諾を得、三月末日の年度替りを以て三十有一年間勤務した濱木屋を退社することになった。其時の自分の感慨は實に無量、何とも言葉に言ひ現はせぬ、寂寥といふか、名状し難い気持ちであつた、人生の大部分を暮し、住み馴れて來た主家、幼年時代から非常な鴻恩を受けた主家を去るのだから其の氣持は全く唯々胸に迫る悲しみ、こみ上げて來る淋しさをどうする事も出來なかつた、然し遠くへ去るものではない、自分の生命のある限りはこの恩を忘れず精神上にも亦事情の許す限り物質上にも報恩の誠を盡さねばならぬと心に誓つたのである。

尙ほ茲で附言しておきたい事は濱木屋對著者はロバート・ダラーの一件から主家としては著者の一擧手、一投足に多少の疑惑の眼を向けられた様であつたが、何等疚しい處なく且つ水谷、永田、長谷川諸氏と共に樺太の落葉松を買占めた時などは美事に適中し十割の配當を行つた事もあり手を染めること何一つとして適中せぬことなしと云う有様で兎にも角にも三十有一ヶ年間眞に主家の爲を思い紛骨碎身努力を重ねて來たのであつて、尙ほ著

者の力が足らざりし爲、一層の盛大を招く事が出來なかつたが顧みて主家の厚恩に聊かの報恩を果し得たと自ら信じ自ら慰めてゐる次第である。

## 井桁藤商店愈々創立

著者の個人經營として大正十四年四月一日開店

愈々獨立を以て名古屋市南區東築地五號地三番地に井桁藤商店を創立、小出治郎太、宮戸新一、長田英雄、堀勝義、蟹江忠作、清水弘和等を店員として中丸太及米材を主として堂々十四年四月一日に營業を開始した。一方三井物産支店に出入して特に信任を得、木材部主任安立辰彦氏、山村專三氏らと肝膽相照し、同年六月には支店長諒解のもとに三井物産とジョイント計算で三十萬圓内外を限度として中丸太の買約に取掛つたのである。井桁藤商店といふ名稱は著者の祖先は「井桁屋<sup>みげたや</sup>」といふ屋號を唱へてゐたが、父の代に町内等では「井桁藤」と呼ばれてゐたのであつて、それを繼承したのである。

## 三井と提携し

### 中丸太界に活躍

まづ第一回には米山丸積二萬石を當時の最低價格七九掛百石につき四百三十五圓を始めとして六萬六千石程格安物を買占めたのである、この時一般材界では自分が如何なる方法でどの方面から資本を得たのか不可思議に感じてゐたが、この時が尤も迷惑の時期であつて、適中し二ヶ月餘りを経過した八月下旬に至つて日毎に騰貴し始め其間盛に轉賣もしたが結局百石六百三十五圓相場が十月に現はれたのである、この時名古屋材界はもとより東西市場共に井桁藤の加藤は十數萬圓の利得をしたと其評判は素晴らしいものであつたが開店初年度の事でもあり世の風評の如くは儲からなかつたが純益六万圓位を得たのである之の成績は初年度の成績としては良好であつて、頗る得意の頂上に達しながら朗らかな大正十五年の春を迎へたのである。

### 新築中の本宅の竣工

尚ほ大正十二年以來逐次建築中であつた名古屋市中區葛町五十四番地の本宅も十五年の春愈々竣工を告げるに至つたので事業は隆盛の極、得意の絶頂にあつたところから親戚、知人、得意先を招いて竣工祝賀の一大賀宴を張つたものである。

### 事業思はしからず

#### 不愉快な年（大正十五年）

大正十五年の春再び三井物産に對して昨年度の如く共同で中丸太の思惑を開始せんことを慫慂したが、何時も柳の下に鱈はぬないから熟考の要ありと主任から諭されたが何しろ商賣好きの著者として矢も楯もたまらないので独自の立場でもつて今が絶好の仕入時期とみてアサカ丸積中丸太を買つたがさて損をせぬまでも意の如く儲からない。尚一方三井物産に對し共同買付開始を迫りつゝある時ハドソン丸積中丸太を共同で買付けたが思ふ如き利益も計上されぬ、止むなく米材に力を加へることにしたが、その米材たるや昨年とは事

違い之又豫想の如く行かない、米松大中角、小角、檜杉丸太計百五十萬B M程を手持ちしたまま越年したのである。

### 事業上の蹉跌

#### 難局に逢着す

年は昭和と改まって二年、この年も年柄とは正反對に不愉快なる年を迎へたもので斯うなつて來ると人生は妙なもので、爲すことがすべて志と喰い違いを生じ、市内共二材木店（假名）、鹿山材木店（假名）、知多郡乙川の田中製材、蟹江の鈴福製材、市内高井杉治郎（假名）等のために驚く勿れ合計四萬三千圓の引懸りを生じてしまった。一方當時手持残りの米材約八萬立方呎が値下りの爲一萬五千圓程の損失となり合計五萬八千圓の損失を受けた、そこで當時十萬圓内外の推定財産があつたと思ふがこの様な大損失を招いたゞめまづ所持の有價證券不動産を處分してこの難關を切抜けるより方法がなかつた。

其の當時は日本の經濟界の動搖の眞最中であつて前途は暗愴たるもので四月には國家的に

モラトリアムが布かれるといふ有様で、非常に内部的整理の上に苦惱の日を送つたもので兎に角所持の證券も不動産も全物一物も残さずに處分してしまつたが其當時の勇敢なる行爲は今考へてみて、よくもかほどの決心をし英斷的な處置が出来たものと再々思ひ出す次第である。こつした處置をした事が今日の存在ある所以であつて、あの場合著者に勇猛心がなかつたならば今日の自分は到底存在しなかつたであらうと考へる、こゝで思ひ至るのは恰度家康公の遺訓

「人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し云々」

の如く眞に人生は重荷を負ふて阪道を上りつゝある様なもので若し足を踏みはずしたとか車の調子に狂ひを生じ逆轉し出した場合には決して無理をせぬ事である、まづ重荷をおろして身輕になつて頂上に達することが必要であるといふことは體驗上からしみじみ感じたのである。自分は確かにそれを實行したのである、然しこつした斷行は言ふべくしていざ實行となると容易に出来ない、之れには血涙が伴つた、新装成れる新本宅は全部處致して立退き假住居のさゝやかな借家に入る、全く悲壯な氣持であつて、この場面は子孫も共に深く銘記されたい、そして其際残つた資産としてはひいき目にみて三萬圓内外であつた

この秋に當り隣家にして株式界大成功者安藤竹次郎氏及び前警視總監安立綱彦氏令嗣安立綱彦氏兩氏の進言に従ひ且つ兩氏の助力を賜つた事を茲に明にしたい。著者は此の後三井物産本店に向けて感謝狀を謹呈した次第である。

#### 築地本店を閉鎖して

#### 中店を本店とする

斯の如き事情から止むなく南區東築地の五ノ三にあつた本店を閉鎖し、南洋材取扱専門店として大正十五年七月に開設しありし中店(現本店、名古屋市南區熱田西町米田四十七番地)を本店としたのである、時に昭和二年五月であつた。然して自から進んで各銀行、業界新聞社等を歴訪してこの間の事情を公表し、内心では若干社會を呪つたのである。一方營業方針に一大變革をなし、投機を加味した思惑を絶対に廢して獨立獨歩堅實主義によつて將來有望と認めた南洋材及び之れに附随する加工品を主とし、附帶事業として中丸太の委託を神戸の内外汽船より引受けて、打つて變つた堅實主義の營業を繼續して行つた、

之れには三井支店主腦部の方々の指導と援助が與つて力ありし事を今尚ほ感謝してゐる次第である。

#### 南洋材を主に

#### 堅實主義に進む

其後三井物産名古屋支店では約十萬圓迄の範圍内の南洋材及附隨の商品を取扱ふ事を許されたがその代り社員一名宛毎日弊店へ詰切りで日報、週報、月報を提出したもので、斯くして苦境を切り抜けつゝ進んだのである、其間著者始め長田英雄支配人(小出治郎太は東築地本店閉鎖と共に退店)其他従業員一同眞に涙ぐましい活動を續け逐次基礎を鞏固ならしめつゝ昭和三年を迎へた。

「編者附記」大正十三年著者が濱木屋を退店する様決心を固めた當時より、獨立開業して逸早く好調を得、そして幾何もなくして逆轉悲境に沈倫し、又好調子を取戻して漸く店隆昌に向はんとした昭和三年春迄の社會狀勢の動向推移に就て記述すれば、

大正十三年、一月一日清浦奎吾氏に組閣の大命降下し同七日清浦内閣成立す、同月神戸に生絲検査所開設さる、即ち生絲輸出の一港主義（横濱港のみ）が二港主義（横濱港並に神戸港とす）に變改された爲である。二月ロンドンに於て英貨六分利附二千五百萬ポンドの公債並にニューヨークにて米貨六分半利附公債一億五千萬ドル成立す。七月奢侈品輸入關稅十割の法律公布さる。同月小作調停法公布、並にメートル法實施さる、十二月日本製紙聯合會成立す。同年の入超額七億三千萬圓と稱せらる。大正十四年、三月各地機業不振を極め休業續出、重要輸出品工業組合法公布さる、同法に附帶して輸出組合法も公布さる、米穀法改正され從來數量調節を主とせるを價格の調節を行ふ事となれり時制の進運に伴ふ進歩的改正なり、同月農商務省は農林省、商工省に分接されたり、農業、工兩國策の遂行の爲に當然分離さるべきものがこの年に實現したのである。四月に至り大藏當局は地方銀行の合同、預金協定の勵行並びに整理減配の獎勵法につき地方長官に通牒を發した、この布達に依り八月に至り年初以來の全國の減配銀行總數は千百二十餘行に達せり、同年十月國勢調査施行せられ人口五九、七三六、八二二人と發表さる

同年の貿易額は五十億圓を突破し、入超額は三億圓臺に減少し稍々順調なり。

大正十五年、一月廿八日加藤高明首相死去し、同三十日若槻内閣成立す、若槻内閣は組閣早々稅制整理案を發表せり、その内容は通行稅、賣藥稅等を廢止し營業收益稅、資本金子稅を新設せり、議會閉院後松島事件及朴烈問題等起り世論罵々たり、二月に入り株式投機熱教興し諸株は大正九年以來の高値を唱ふに至る。三月關稅定率法改正實施され貿易保護主義愈々濃厚化す、

十二月廿五日 大正天皇崩御被遊

同日 今上陛下御踐祚被遊

昭和と改元。

昭和二年未曾有の金融恐慌の年なり。

三月片岡藏相の失言問題に依り震災手形所持銀行の内情曝露され、此處に金融恐慌の發端となり、十五日東京の渡邊銀行及び、あかぢ貯蓄銀行の支拂停止あり、續いて中井、村井、中澤、八十四、左右田等の諸銀行休業せり、四月には鈴木商店破綻し、臺灣銀行の四億五千萬圓に上る不良貸付曝露し深刻なる金融界不安を露呈し、政府は臺銀救濟緊

急敕令案を樞密院に諮り、否決され、若槻内閣は四月十七日遂に總辭職するに至る、田中義一内閣同廿日成立、依而臺銀は臺灣島内を除いて他の支店は全て休業する旨發表、續いて近江、十五兩銀行休業、特に十五銀行の休業は世の耳目を震撼す、全國至る處の銀行取付を受けたるもの擧げて數ふべからず、全國銀行は廿二、三の兩日臨時休業し、二十二日には向ふ廿一日間を期間とする支拂猶豫令（モラトリアム）發布さる、然して休行の止むなきに至りたる銀行は三十二行に達せり、誠に未曾有の金融恐慌なり。日銀の非常貸出高は廿億九千萬圓、兌換券發行高廿六億六千萬圓と實に空前の巨額に達す、この金融恐慌に依りて資金は弱小銀行より郵便貯金及び一流銀行に集中するの傾向濃化す。五月三日第五十二回議會召集（臨時議會）、議會に於て政府提出の日銀特別融通及び損失補償法案並に臺灣金融機關融資法案が兩院を通過し、九日公布施行されると共に臺銀も開店し、財界には漸く安堵氣分漲る、五月廿八日田中内閣は山東出兵をなせり、七月の新系出廻最盛期に入って糸價千三百圓を割るに及んで、蠶糸中央會は臨時總會を開き第三次帝國蠶糸会社設立を決定、五萬梱の買上げ及び擔保貸付をなす、九月に入り政府は蠶糸救済のため五千萬圓の低資融通をなす。

著者獨立開店の井桁藤商店も之の金融恐慌の波動を受けて營業上の一大改革をなすに至つたのである。

### 組織の變更と

#### 南洋材へ一層の活躍

昭和三年三月三十一日に資本金三萬五千圓（出資振合、金三萬一千二百圓無限加藤清吉、金一千五百圓無限長田英雄、金一千圓有限吉野信行、金五百圓同宮崎胤雄、金五百圓同長谷川光治、金三百圓同村瀬信夫の合資會社井桁藤商店を設立して著者の個人經營たる井桁藤商店の業務一切を繼承したのである。其間南洋材は關東大震災當時から兎も角僅少ながらも各市場へ輸入されつつあった、名古屋としても吉見、江口、材摠などが何れも相當の苦心を拂つて研究された結果は市場販賣品として見込みのない材種であると考へられて顧みられなくなつてゐたが、大正十五年七月三井物産から派遣された佐藤孝一氏が南洋材の主産地フィリッピン、ボルネオ、スマトラ附近に視察を遂げての歸朝談を同社三階で開か

れたのを拝聴して、之れは将来性のあるものといふ感を深くした。同時に東京、横濱、大阪等の市場に就て審さに研究調査し名古屋としても等閑に附すべきものならずと考へ前記専門店を開業したのであって、中丸太、其他木材の投機的營業は廢止し、南洋材を終始一貫名古屋を中心に宣轉擴張し將來の本業とすべく勇往邁進したのである。斯様な立場上南洋材の環境に就き、より一層その信念を深からしめたと共に、一方生活程度の低下を計りあらゆる方面に細心の注意を拂つて奮闘努力したのは勿論、この商賣から得られる利益は全部販路擴張に投入しそれに依り自分が日本に於ける南洋材取扱業者として最も著名な立場になるのを目標として粉骨砕心した、だから他の方面では井桁藤商店の行動を客觀的に見て狂人視されてゐた、夫れ程に凡ゆる方法をもつて宣傳したのであって或時はホテルに百餘名の顧客を招いて披露宴を張り、更に豊橋、静岡、金澤、宇治山田等で宣傳披露會を開き又業界新聞はもとより、日刊新聞の廣告、種々なるポスター、電柱、電車内の廣告利用をなすなど各種各様の方法にて南洋材そのものを一般的廣く利用されることに努力を傾注したもので更らに一方名古屋市中區日置町出郷露橋の荒川源蔵氏と協議して同工場でラワンベニヤ板の製作を開始した。

## ラワンベニヤ板の

### 製作に着手

然して荒川源蔵氏が製作されるラワンベニヤ板製品は全部引受けるといふ特約のもとに製造に着手せしめた、この當時既に日本プライウッド、新田ベニヤ等の先輩者は之れが試作販賣を始めて居られたが何しろ單價が高い關係から一般向の需要とならず、むしろ特殊向のものとされてゐたが、著者の着眼點としては價格は夫程高價にはつかぬ筈だから或程度利用されるものと確信して製作を初め、製品は遠く西は鹿児島、長崎、博多、東は新潟水戸、高崎方面等各知名の材木問屋へ一、二束宛歎願的に販賣方を申込み新販路の開拓に努力した、その間の苦勞も亦非常なもので、一般は之の新製品に對する智識殆どなく賣擴める爲に拂つた苦心は全く並大抵でなかつた、或る時、山陰筋の有名なる某材木問屋の如きは殆ど香具師と同一視し、こんな欺瞞的商品は取扱はぬと劍も水口口の挨拶を受けた事もあつた。著者並に支配人長田英雄、社員宮崎胤雄、村瀬信夫等はこうした世相の中を東

奔西走席の温まる日とてなく萬難を排して極力ラワンベニヤ板の利用普及に献身奮闘を續けた、が當時の製品は全くお話しにならぬもので仕上げの如き手削りであったから頗る粗悪な製品であった、斯くて不屈不撓の努力は漸く實を結ぶ時期が到來し、日に月に販路の擴張を見るに至り、南洋材の聲價が認められるにつれてラワンベニヤ板の用途も擴大され價格も製作技術の進歩と共に逆に低下をみたので一層用途も増し年と共に製産量も増大して植民地初め遠く大連、青島、上海、マニラ、アメリカ、歐洲諸國等所謂世界各地方迄もラワンベニヤ板の輸出を見るに至った、この間漸く十ヶ年間、最初豫想だになかった現今の發展殷盛振りをながめる時うたゝ感慨無量なものが多々ある。ラワンベニヤ板を中心に發展をの段階を辿った本邦のベニヤ業界が或ひは全國ベニヤ板業者聯合會、全國ベニヤ工業會、愛知縣ベニヤ板工業組合等の統制團體の許に益々發展しつゝある現在、その草分けとも云ふべき時代に筆紙に盡し難い苦闘を経験した事を想ひ自ら欣快を禁じ得ぬ次第である。

### 三井の監督から

#### 單獨に開放

#### 店運隆盛に向ふ

昭和四年三月となつて三井物産では井桁藤商店は最早や單獨營業の基礎出來たりと鑑定され又事實もそう見えるからといふので監督を解除され、三井から出張の社員は引揚げられた、斯くして日々店運は隆盛に向ひ加ふるに一般の信用も回復したのである。當事恰度内外汽船株式會社では中丸太の伐出賣材を責極的に行はれたのでその委託を引受け、昭和四年以來同八年迄、少ない年で十五萬石、最も多い年は二十七萬五千石といふ様に名古屋揚げを一手に取扱ひ幾多の苦心と販賣上困難が伴つたが之れも大過なく受托し終せた、そしてこの歴大な受托木材もよく義務の履行が出來、従つて手数料なども相當の額を得られたのである。



## 横堀倉庫賣場

### 新堀川出張所新設

昭和七年四月、名古屋市中区堀江町三丁目に新堀川出張所を開設して（同出張所は昭和十一年末閉鎖）主としてラワン挽材、北海雜木乾燥材並にベニヤ板の販賣を行ふ事とし、翌昭和八年八月名古屋市中区東出町二丁目地先（中川運河東支線六號地）に横堀倉庫賣場を開設してベニヤ板床廻材等を主として販賣することとした、同支店は今日尚ほ盛に販賣商戦を繼續してゐる。斯くして社運愈々隆盛に向ひ、昭和八年八月一日資本金八萬二千圓（出資振合、金六萬四千七百圓無限加藤清吉、金五千三百圓無限永田英雄、金一千八百圓有限宮崎胤雄、金一千五百圓同佐伯市次郎、金一千五百圓同村瀬信夫、金三千圓同横井ふさ、金七百五十圓同加藤清道、金五百圓同磯田芳松、金七百五十圓同小島萬九、金六百圓同蟹江忠作、金五百圓同清水弘和、金五百圓同平野茂、金五百圓同横井光儀、金八百圓同加藤房子）に増資し層一層の活躍をすることとした。

### 樺太敷香氣材の入札

前述の如く内外汽船の委託材を受けて相當の成績をあげたことにより、昭和八年度樺太敷香氣屯材十萬石の官行材入札に際して内外汽船では著者の名儀で四十九萬四千九百餘圓で落札するといふ有様で名實共斯界に宣揚されるに至つた。尚一方南洋材も年と共に需要一般化し最初の特需の需要の範圍を去つて現今では木材界には無くてならぬ重要商品となり最初は消化力も一ヶ月一千石乃至二千石未滿なりしものが順次増大し來り今日の南洋材時代を現出してゐるのであつて、この點も十年以前に着眼した事がよく偶然と云ふか適中と云ふか符合した事はけだし快心の至りである、すべて物事は三年以上十年の苦節を経過せねば實績を上るものではないといふ事を事實の上に行つてみて感じ入つた次第である。

### 南洋材によつて

#### 井桁藤の名高し

大正十五年から昭和二年に亘つて南洋材に着眼して之れに主力を注いだからこそ我が國

材界に井桁藤のある事を認められたが之れが中丸太、米材、内地材にのみ従事してゐたならば到底今日の名聲は得られなかつたと思ふ。

### 滿鮮に進出

#### 落葉松を買ふ

昭和七年度には北滿及北鮮に着眼し敦賀から清津に活躍し先づもつて栃木商事の落葉松を伊藤菊三郎氏と共同で買付けて北鮮の事情をよく認識し、次いで北村梅七氏との關係で東拓と昭和八年度落葉松一萬石の買約をなし、斯くして昭和八年春も同九年にも北鮮地方を踏破して朱乙港から小型汽船で三千石内外宛武州、對州、相州等の汽船に積み大阪、名古屋へ輸送した、之れが積込の時などは土地不馴れと言語不通のために實に苦心困難を重ねたのであつた。

### ラワン製品の

#### 鮮滿、臺灣進出

昭和七年には取扱主要販賣品たるラワンベニヤ板、各種ベニヤ板、ラワン挽材、北海雜木乾燥材などの販路擴張のために朝鮮、滿州、臺灣などに着眼し先づ朝鮮釜山、木浦、大邱、大田、京城、仁川、平壤、新義州、其他各地に販路を求めて種々なる難關を経て遂次之れが擴張を見つゝ、昭和八年に至つて滿州方面にも取引を開始し、昭和九年に至つては相當數量の消化を期待出来る様になった、臺灣は昭和九年度より開始し之れとて三、四回宮崎社員の渡臺結果によつて販路も遂次擴張され、今日に及んでゐる。

### 競争激甚のため

#### 利益減殺さる

南洋ラワン材原木及ベニヤ板共に一般需要家が認識を持つと共に取扱業者も増加しこゝに自由競争の結果利益は漸次輕減されそれが常道ではあるが結局井桁藤商店としても益々取扱數量の増加を計らねばならぬし、又取扱商品の種類も各種各様に取扱はねば營業上差支へを生ずる故、昭和八年秋以降北海道雜木挽材も漸次開始し九年三月に久方振りて北

海道へ出張した。

## 北海雜木材取扱と

### 現地視察の爲に出發

まづ三井物産小樽支店木材部佐野清氏と共に昭和九年三月十五日吹雪の中を小樽を出發し、途中瀧川三浦華園へ雪中を難行して到着宿泊す、翌十六日朝出發留萌を經由し古丹別を視察して再び留萌へ引返して宿泊、十七日留萌を出發旭川にて土場を一巡して稚内迄行き一泊十八日は稚内を出でて附近沿岸樺岡、聲問、鬼志別等を馬橇にて筆紙に盡し難い苦行を続け知來別、内太留呂を経て時前へ午后八時に到着した、この間の行程は一方はオホーツク海に臨み一方は斷崖絶壁の危険極まりない道を通るのであるから全く生きた心地がしない、途中馬橇は數回轉覆して雪中に投げ出され幾度となく念佛を唱へた次第であつた。聲問の附近からは宗谷海峽を距て、遠く樺太の南端を望み見る事が出來り度明治四十四年、津輕、南部方面を駆けめぐつた當時青森から北海道の空を眺めて何れはあ

の土地も自分の足で各所を廻らねばならぬと心に念じた當時を思ひ全く懷舊の念を禁じ得なかつた。十九日は時前より鬼志別へ引返し、更に濱頓別迄行き一泊、二十日濱頓別發小頓別へ行き馬橇にて六線を経由して枝幸へ到着する、この日のコースでも馬橇は何回も轉覆した、枝幸にて山本興吉と云ふ人の招待で或る料亭へ行つたがその設備の御粗末さに一驚を喫した、翌二十一日早朝山本氏の案内で明治二十九年八月九日日蝕觀測の行はれた遺蹟を見學した、英・米・佛其他各國の有數なる天文學者が集まって觀測されたが概して不成功であつたと云ふ、この時土地の人々は眞の親善振りを示したので之れに感激したアメリカの學者は洋書二百九十圓を寄附されそれを基本として、又用材は觀測の時の材料を用ひて立派な圖書館が建設されてゐる、この觀測隊の隊長は米人ダビット・ビートット氏であつて、同氏は歸米後コロナの寫眞を送付して來られて今だに立派に遺されてゐる。そして枝幸を出發して音標へ向つたが途中から猛烈な吹雪となり枝幸より途中の徳志別迄は僅々三里の道だが馬橇にて二時間半もかゝつた、徳志別に着くと吹雪は一層猛烈となり暴れ模様である土地の人や馭者はこれより音標へ行くのは止した方が良くとすゝめるのだが血氣の著者はこれ位の雪が……と多寡をくゞり同行の佐野氏もこの方面は馴れてゐら

れたので大した事はないさと云ふ様な譯で、北海道の恵問家の佐野氏が太鼓判を押されたから大丈夫、それ出發と勇み立つて徳志別を發つた迄はよかつたが、さてこれから著者等一行は生死の堺ひを彷徨する事となつた徳志別と音標との丁度中間邊り迄來ると愈々暴風雪となつて煙幕でも張つた様に吹雪で直きに馬の足が埋まり既に馬の腹の邊迄雪が積もつて咫尺を辯じ得ぬ。馬櫓は一寸も動かない、雪が降るのではなく降つた雪を一塊つつ風がまとめて吹きつけて來るからじつとしておれば忽ち雪達磨になり生埋となつてしまふ。

三人は櫓から降りてシャベルを振つて自分たちの周圍に雪のバリケードを造るのである。もう力のある限り根かぎりシャベルで雪を掘り上げて周圍にうづ高く積むのである、そうすると吹きつける雪はバリケードに當つて益々高く吹き上げられて行く、吾々はやうやく空洞の樣の中で小康を得られるわけである、こうして進退極まつた吾々はこの空洞の中で暴風雪の鎮まるのを待つ、一分が一時間に思はれ一時間が一日の様に思はれる。やがて暴風雪は稍弱くなつた様だ、吾々は洞の一角を崩して外へ出る、全く外へ出る感じである。渺然として果てしない雪野原に未だ雪は降つてゐる、身體全体は既に知覺を失つてゐる。馬櫓を急がせて音標へまっしぐらに走る、日がどつぷりと暮れた午後八時頃漸く音標の宿へ着

オトシク

オトシク

くことが出來た、宿の人達は吾々の姿を見て茫然としてゐる、そして吾々の無鐵砲さに非常に驚いてゐた、音標に着いてから再び暴風雪となり宿屋はミシミシギシギシとゆれる

オトシク

始末に著者は宿の各部屋のランプを消して廻つた様なことであつた。この夜中即ち二十二

オトシク

オウム

日午前函館に大火があつたのである。二十二日朝同じく吹雪をついて音標を出發し雄武へ

オウム

オウム

向ふ、雄武で中食を認め小憩の後興部へ行き一泊、この日も幾度となく轉覆をした。翌二

オウム

オウム

オウム

オウム

オウム

オウム

十三日興部發、遠輕、留邊蘆を經由して網走へ着く、二十四日早朝網走を發つて、上斜里

カミサツル

カミサツル

カミサツル

カミサツル

カミサツル

カミサツル

上札鶴へ寄つて弟子屈へ出て一泊する。二十五日弟子屈發、標茶經由で釧路着一泊、二十

オウム

オウム

オウム

オウム

オウム

オウム

六日は午前三時半と云ふに早くも起牀して厚牀、西別等を巡視して中春別に中食、それ

オウム

より尾岱沼本材迄、此間は殆ど休息の暇なき強行軍であつて輕便鐵道、ガソリンカー、馬

櫓等を利用して息つくひまない強行を續けた、途中巡視の山林が貧弱であるのに一驚を喫

オウム

した次第であつた。尾岱沼は丁度天の橋立の様な松並續きの島が海へ突出した處で自然の

灣をなして良港となつてゐる、その突出した島に馬が多數放牧されて全く大陸的氣分が汪

オウム

溢してゐる、尾岱沼では原木が悪くて閉口した、この方面では流石にスキーが盛んでどん

な人でも皆スキーが一番輕便な交通機關で重用されてゐるが著者はスキーが出來んの度

々困った。中春別で大力の女に逢ったがこの人は今村運送店（とは名ばかりでバラック式の貧弱な運送店）のおかみさんで体重二十四貫あり、ガソリンカーからの荷降しは一人で樂々やつてのけると云ふ大力振りである。この人の娘が又大女でち彘子と云ひ十三才で十四貫からあると云ふから大したものである。二十七日は昨日の逆コースを辿つて厚岸アッケシへ来て一泊。二十八日厚岸より釧路へ戻つて一泊。二十九日午前十時に釧路を發つて帯廣オシロ經由上土幌へ上土幌より帯廣へ戻つて一泊。三十日は帯廣を發て帯尾へ出て帯廣へ引返して再び宿泊。三十一日帯廣より砂川經由小樽へ出て一泊。以上の各コースを恙なく終へて四月四日無事名古屋へ歸着した。斯くて雑木産地の認識を深めると共に實に好参考となつた、その時約五千石の雑木を買約し四月六日名古屋へ歸着した、其後昭和十年二月には支配人長田英雄が北海道へ出張し天塩、北見、釧路、日高などに於て約一萬六千石程買約をなし再び七月出張して四千石程の買付をなした、其當時の氣持としては南洋材、ベニヤ板などの薄利から將來雑木界に於ても一層活躍すべき事を痛感してゐたのであつて、現在に至る迄繼續して北海雑木の移入を行つてゐる。

## ベニヤ板保税工場

### 大江合板株式會社設立

時勢の進運に伴ひ昭和八年に南洋材輸入を主とした加工品の保税工場設立を目論見種々研究の結果昭和九年春當局へ願書を提出し昭和十年一月十四日附をもつて大阪税關官房より許可の内達があり、よつて同年三月四日の吉日を卜して名古屋市南區笠寺町加福三ノ切四五六に水上保税地域二千坪、陸上保税地域三千坪を定めて地鎮祭を執行、建設に着手した、然し之れには相當の固定資本乃至流動資本を要するが故に獨力をもつては若干井桁藤商店の營業上に幾分影響することあると考慮し一、二の同志と共同經營を諮つた結果鈴木商會（鈴木鐵次郎氏）が同意せられ、出資は双方半々と云ふ事で資本金十萬圓二分一拂込をもつて五月設立、名稱を大江合板株式會社とし、七月十八日諸機械の試運轉をなし、越へて八月保税工場（合資會社井桁藤商店保税工場）として正式認可が發令され、九月十一日正式開業したのである。著者は同社の取締役社長に就任し、専務取締役鈴木鐵次郎氏、取締役長田英雄氏、監査役日比野德次郎氏諸氏と共に社運隆昌の爲に努力し、第一期には

若干の利益を挙げ、十萬圓金額拂込満株となし、昭和十一年五月廿八日附で資本金を五萬圓増資（四分一拂込）して第二期營業年度を經過し昭和十二年三月には尚ほ一層の發展性を確保し得るに至つた、その間同社は保税工場なる爲製品たるラワンベニヤ板は外國にのみ販賣を許され（内地に賣る際は輸入税を賦課される故内地市場では他製品と競争不利）る關係上販路の開拓には實に並々ならぬ苦心を拂ひ現在では南阿、歐洲、南洋、滿洲、中華民國、各地方に強固なる得意先を獲得して、製品の優良、規格の正量をモットーに保税工場獨特の地歩と相俟つて層一層の發展をなすべく懸命の努力を致しておる次第である。

## 井桁藤商店

増資と共に一層の活躍

井桁藤商店では業務の擴充と共に資本金増加の必要に迫られ昭和十二年一月十萬圓に増資をなし（出資振合金七萬五千圓無限加藤清吉、金七千圓無限長田英雄、金二千五百圓有限宮崎胤雄、金千五百圓全佐伯市次郎、金千圓全小島万丸、金千五百圓全村瀨信夫、金

千圓全横井光儀、金八百圓全蟹江忠作、金七百圓全清水弘和、金三千五百圓全横井ふさ、金千圓全加藤房子、金千圓全加藤清道、金千二百圓全加藤周一郎、金八百圓全加藤俱子、金五百圓全伊藤政治）益々業界に雄飛する事となつた。然してラワン丸太の輸入は比律賓産並にボルネオ産の良材を以て各方面に名聲を拍すると共に、挽材方面に於ても各官廳、會社納入の乾燥材は獨特の良質挽材を供給して確固たる地盤を築き、ベニヤ板も内地其他諸外國に向けてその取扱數量は國內有数の地位を占め、其他チーク材、フローリング等に就いても獨特の優良製品、信用ある商戦を續けて井桁藤の名聲日々に高し。

「編者附記」昭和三年著者の個人經營なりし井桁藤商店の組織を變更してより今日の隆盛を見るに至りたる間の社會經濟狀勢の動向推移に就て述べれば

昭和三年、五月日本商工會議所創立さる、昭和二年五月に山東出兵の擧ありてより支那に排日氣勢揚り、同三年五月に至り益々熾烈となり上海、廣東方面一帶排日氣分に包まる、六月四日張作霖が奉天驛附近で爆死す、七月に入り諸銀行は土曜日半休を實施す、八月勳章問題其他の疑獄問題起る、八月廿七日不戰條約調印されたるが、この條約文中

の「人民の名に於いて」と云ふ字句が政治問題となる。

十一月十日 今上陛下 御即位の大禮を行はせらる。

昭和四年、三月糸價定融資補償法公布（同法は九月より實施されたり）、六月拓務省新設、七月田中義一内閣滿洲某重大事件に關聯して總辭職をなし、同日濱口雄幸内閣成立す、同月工場法施行適用工場に於ける少年工及び女工の深夜業廢止さる、十月ニューヨーク株式市場大崩落を演じ世界的恐慌の發端となる、十月十五日官吏減俸問題起り相當物議を醸す、十一月廿一日濱口内閣は昭和五年一月十一日より金輸出を解禁すべき旨を決定發表す、依つて正金銀行は金解禁に備へ英米財國に對して一億圓のクレジット設置交渉をなし成立す、昭和五年、一月十一日金輸出解禁され十七日に至り外銀はまづ正貨輸送を開始す、三月に入りて各市場大暴落をなし就中生系恐慌甚だし、政府は糸價安定補償法を發動し融資を開始す、此の時の融資豫定總額は一億五百萬圓にして貸付豫定數量は十五萬圓と定めらる、四月二十二日ロンドン海軍々縮條約調印成る、八月國勢調査施行、人口は六四、四五〇、〇〇五人と發表さる、十一月十四日濱口首相東京驛にて狙撃され重傷を負ふ、年末までの正貨輸送三億二千萬圓に上る、本年米作は大豐作にし

て六千六百萬石を數ふ、米價は崩落し米穀法の無力を曝露す、夏、秋繭の平均値二圓四錢と云ふが如き恐慌的安値出現し農村の窮乏益々つふる。昭和六年、六月重要産業統制法を實施、同時に工業組合法實施さる。七月に改正米穀法實施、之の米穀法改正は昨五年度産米の農作に依り無力化した米穀法に米穀基準價格及び外米輸入管理の二項目を制定したるものにして注目されるべき改正なり。八月には不戰條約批准問題あり、九月十八

日滿洲事變勃發す、同月廿日イギリスは金本位の停止を發表し、之等に刺激された我が財界各方面では十月初旬よりドル買熱昂まり、漸増の傾向を辿るに至りたる爲、政府は金利引上と統制賣とを以て對抗したるも、正金の金現送は既に十月下旬に於て一億圓に達するに至り之の狀況に對する官民合同の財會時局懇談會開かれたがドルの思惑買は絡熄せず、十一月にはドル買合戦の場面を見せ、日銀は利上げを續け、正金の統制賣爲替は二億圓に上る、第二次官民合同時局懇談會を開いて、財界有力者間に金本位制擁護の申合せありたり。十二月十三日金輸出再禁止斷行せられドル買側に凱歌が上つたわけである。同月兌換停止緊急敕令發布せらる。本年の貿易額廿五億圓にして戦後に於ける最低であつた。昭和七年、一月八日櫻田門不祥事件起る、一月中旬より爲替低落し始め二

月に入り圓爲替、並に外貨債暴落を演ず、一月廿八日上海事變勃發して益々擴大、三月一日滿洲國建國を中外に宣言。五月十五日いはゆる五・一五事件起る。七日日銀は保證準備を十億圓に擴張す、同時に納付金制度を採用する事と決定され、又一方資本逃避防止法を實施す。同月「全國勞農大衆黨」と「社會民衆黨」と合同して「社會民衆黨」成立さる、委員長安部磯雄氏、書記長麻生久也氏、九月農林省に經濟更生部設置され、農村經濟の更生策實行に乗り出す。同月日滿議定書調印成る。十月郵便貯金の大口利下げ行はる、即ち四分二厘より一舉に三分に引下げ也。同月王子製紙は富士製紙、樺工兩社を合併して大製紙トラスト出現、木材界への影響大なり。即ち北洋材の内地各市場入津量の漸減に直接間接の影響を齎したるが故なり。昭和八年、三月廿七日我が帝國は國際聯盟脫退を通告す。米國に金融恐慌勃發しルーズヴェルト大統領は金輸出禁止をなす、同月ヒットラードイツ獨裁權を掌握す。五月爲替管理法實施さる、六月帝國人續株の肩代り行はれ臺銀所有の帝人株十萬株を生保團（昭和五年十月生命保險會社の共同投資機關として生保證券株式會社創立され同社は昭和八年二月解散されたるも有力生保會社間には尙ほ斯種團體存續され居り生保團といはれるものなり）及び大阪綿絲商に賣卻せり後に帝人事件として世間の耳目をあつめつゝある、その發端とも云ふべきものなり。十一月戰時インフレの所産たる臨時工問題起り政府は臨時工にも工場法の適用を命じた。本年は未曾有の大豐作にして米穀實收七千萬石を突破すれども農村にはかへつて「豐作饑饉」の聲高し。昭和九年、一月資本金二億四千五百九十四萬圓の日本製鐵會社創立せられ八幡製鐵所、釜石、富士、三菱、九州、輪西等の各製鐵會社合同し一大鐵鋼トラスト成立。五月貿易調制及び通商擁護に關する法律公布實施さる、同月帝人事件起る、これにより時の齋藤内閣總辭職す。九月廿一日關西地方に颱風襲來し大災害を受く、本年跛行景氣の徵歷然と現はれ軍需インフレ景氣は股振を極め、中商工業者、農村、特に小農は飢餓に瀕するの狀況を示せり。昭和十年、四月國體明徵問題起り、美濃部達吉博士の「逐條憲法精義」「憲法提要」「日本國憲法の基本主義」等發禁處分に附され、八月三日、政府は國體明徵に關する聲明を發表、九月美濃部博士は貴族議員を拜辭し起訴猶豫となる、これより先き三月には日露間に北滿鐵道讓渡交渉成立し、代價は一億四千萬圓、滿洲國はロシアに對し三分の一を現金で支拂ひ、殘額は物品にて支拂ふ事と協定。七月カナダの關稅政策對抗の建前より通商擁護法を發動。十月國勢調査施行、入口



六九、二五一、二六五人。同年の貿易額五十二億圓に達し空前の記録也。昭和十一年、二月、いはゆる二・二六事件勃發し朝野は擧げて戦慄、震撼し一時は國民全般は非常な不安氣分に包まれ色々派生的感情の動搖が見られたが次第に冷靜に歸し、兩三年末急進的偏倚に移り來つた政治社會狀勢の動向を靜かに回顧する餘裕を持ち得るに至つた、その間僅々の日數であつて日本國民獨特の敏感性と沈着さとを如實に示現せる次第であつた。二月二十七日帝都一帯に戒嚴令布かる、二十九日叛亂軍鎮定さる、三月九日廣田内閣成立し馬場藏相は故高橋前藏相の方策たる公債漸減主義の放擲を聲明せり、財界に統制經濟論旺んに行はれ、四月政府は低金利政策を採り五分利債の低利借換をなす、五月一日第六十九議會招集、五月四日の開院式に際し二・二六事件に關し特に言及される敕語を賜る、本議會に於て臨時工問題に就て大論議あり「退職積立金及手當法」通過す、但し全産聯の猛反對により政府案は大なる修正を受け、五十人以上の工場のみに適用を限定された。六月對濠通商擁護法發動さる、七月改正重要産業統制法施行され、八月商工組合中央金庫法定款認可となる。十一月廿五日、日獨防共協定成立、十二月二日、日伊協定發表。十一月には秋田縣尾去澤の三菱鑛山貯水池決潰し、死者六百、罹災者千六

百に及ぶの大慘事あり國民等しく哀悼の意を表す。

#### 名材同業組合

#### ベニヤ業界の

#### 公職關係に就て

附 愛知縣ベニヤ板工業組合設立

著者が濱木屋専務當時より今日に至る迄の間名古屋材木商工同業組合並にベニヤ業界關係の公職に就任したる事項について述べれば、

同業組合代議員

自昭和二年九月

至昭和三年四月間就任

自昭和四年九月

至昭和十一年四月間就任